

Libro de Alexandre (VIII)

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem that consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many diverse episodes such as that of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to historians, and that of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century AD. So, in this work by an unknown author, perhaps a cleric, a mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), the style of which has been called the *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with the *mester de juglaría* (minstrels' art).

This translation covers from the strophe 1373 to 1562.

アレクサンダーの書 VIII

太田 強 正 訳

アレクサンドレの書は 13 世紀の最初の約 30 年の間に書かれたと推測される 10700 行からなる大叙事詩である。

これは 33 歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前 4 世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約 1200 年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後 13 世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Châtillon の *Alexandreis* を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア (*mester de clerecía*) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (*juglares*) によるメステル・デ・フグラリーア (*mester de juglaría*) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (*cuaderna vía*) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

今回は第 1373 連から第 1562 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

1373 王のことは置いておき、他の者達についてお話ししましょう
 そこにいた人たちは皆良い人で、その皆について私達は語りましよう
 しかしその中でもクリトゥスを忘れないようにしましょう
 悪人のために善人を除外すべきではありません

1374 クリトゥスはメディア人之間を回って歩き、恐れ知らずで良く戦いました
 ダマスカス出身で、長身の男を殺し
 彼の頭から兜とその下の鎖を取り去りました
 —しかしこの苦勞から彼は悪い褒美を受け取ることになるのです
 —126)

1375 その死者の兄弟で、非常に優れた男が
 —サンガと言う名ですが—、彼に復讐しようとしてしました
 しかし神はクリトゥスを護り、助けようとし
 手ずからサンガを死に至らしめることになりました

1376 その死者達の父親をその不幸の故に
 神は生かしておきました、大きな苦しみを見たので
 父は非常に急いで彼らを助けに来ました

しかし彼が来た時には、事は済んだ後でした

- 1377 二人が死んでいるのを見ると、悲嘆に暮れて
日がな呆然とそこに立ち尽くしました
涙も出ませんでした、それほど苦悩していたのです
生き続けていたら、頭がおかしくなったでしょう

- 1378 メガ¹²⁷⁾ が我に帰ると、叫び始めました
《ああ、毒蛇よ、悪い時に海を渡ったものだ
お前の毒をすべて飲み込んでやろう
子供達を殺したのだから、父も殺しに來い

- 1379 私を殺しさえすれば、事は足りるだろう
伯爵夫人¹²⁸⁾ には子供達も夫もなく
今まで見たこともないようなひどい嘆きを見るだろう
お前を生んだ女がそれを見ればいい》

- 1380 クリトゥスは振り向こうとしませんでした
彼の大きな苦悩を見て、許してやりたかったのです
クリトゥスは彼に言いました：《ご老人、行ってあなた達の息子
達を悼んであげなさい
私は私の槍があなた達の血にまみれることを望まない》

- 1381 メガはクリトゥスを非常に追い詰め
ついにすぐ近くに來ました
彼を槍で突き、彼を激怒させました

クリトゥスは父を息子達の間に投げ入れました

1382 私たちはクリトゥスについて話しました；（今度は）ニカノルについて話しましょう

—彼より上手はいないでしょう—

彼とドン・フィロタスは兄弟で

ドン・パルメニオの息子です、彼については前に話しました

1383 ニカノルは自分の率いる軍を確実に統率していました

彼は怒れる蛇のように口を開けていて

カルデア人の軍の中に大きな突破口を開けました

—この男に対しては何も効き目がありません—

1384 ニカノルはダリウスのいる所に目を付けました

—黄金の輝きがそれを示していました—

彼は心の中でこれは重大なことだと言いました

まだ戦いは分からないのだから

1385 彼は他のことはすべて置いて王に立ち向かって行きました

どうしても野営地を叩きかったのです

出会う者すべてにひどい傷跡を残しました

野営地には彼より優れた者はほとんどいませんでした

1386 レンノン はダリウスの友で親戚でした

多くの素晴らしい人々を連れて彼を助けに来ました

多くの騎士と多くの召使と共に

金銀で華々しく飾り立てて

- 1387 彼はニカノルがダリウスをいかに攻めているのか見ると
ダリウスのいる所から前に進み出て
彼もそうだったのですが、もう一人の非常に勇猛な男に向かって
行き
ニカノルの繰り出す攻撃をすべて受け止めていました
- 1388 そこには激しい戦いと厳しい攻撃がありました
多くの頭が肩から切り離され
多くの立派な鎧が壊されてバラバラにされ
多くの立派な剣が切れなくされて割られてました
- 1389 貴族も臣下も皆区別なく死にました
馬が空の鞍で走っていました
運命の女神たち¹²⁹⁾は勘定ができなくなり
時々やむをえず倍に数えることになりました
- 1390 しかし神が導こうとする事なので
世のどんな力もそれを変えることはできません
野蛮人たちは逃げなければなりません
数が少なくなっていたので、戦い続ける事ができなかったのです
- 1391 その時ニカノルは良い事を思いつきました
—それは彼には本当に男の手柄に思えました—
もしレンノンが彼の手から逃れたら

他の事は全く価値がなくなることになると

1392 両者は互いに大いに考えを巡らし

ついに二人が相見えました

すぐにお互いを視界に捉え

馬を走らせ戦いを繰り広げました

1393 両者はお互いを徹底的に攻めようとしたので

握った槍がたちまち粉々に砕かれました

馬が激しくぶつかり合ったので

それによって巨大な二つの塔でも倒されたことでしょう

1394 馬も貴族も絡まって倒れました

彼らが打ちのめされなかったのは大きな驚異でした

しかし彼らはすぐに立ち上がりました

というのは哀れみというものを疑っていたからです

1395 レンノンは倒れて重傷を負い

動くことも、確実な攻撃を仕掛けることもできませんでした

ギリシャ人の方は、あの立派なヒゲを生やした方ですが、もっと能力がありました

彼を破り、命を奪いました

1396 ダリウスを警護していたヒルカニア人¹³⁰⁾の騎士たちは

—そこにいる中では一番優れていましたが—

ニカノルからひどい打撃を受けているのを見て

もう少しで絶望から自分を傷つけるところでした

- 1397 非常な怒りを覚えていたので、皆が彼に襲いかかり
多くの兵士がいたので、彼を真ん中に包囲し
戦功になるような猛攻を彼に掛けました
大量に積もった槍が山のように見えました
- 1398 ニカノルは振り返って、両手で攻撃し
右に左にヒルカニア人たちに襲いかかりました
捕まえることができた者は傷つけました
彼らをアラビア出身のレンノンの兄弟だと思っていました
- 1399 あなた方にいくら話しを続けたいと思っても
話そうとはしますが、非常な苦痛を伴います
ヒルカニア人たちは数が多くて優秀だったので、ニカノルは彼ら
を持ちこたえることができませんでした
ギリシャの良き城壁はそこで死ぬことになったのです¹³¹⁾
- 1400 このように完璧な肉体を持ったニカノルは死にました
体は朽ちますが、名は健全です
しかし彼は倒れる前にあのような損害を与えたのです
彼の名は世が続くかぎり語り継がれるでしょう
- 1401 すでに正午を過ぎ、日は傾いていました
戦いはまだすべて終わってはいませんでした
アレクサンダーはどのくらいの被害を被ったのか理解しました

もう少しで怒りのあまり正気を失うところでした

1402 怒りと共に苦痛が彼の心を捉え

鹿や獅子よりも激しい攻撃を仕掛けました

騎士も歩兵も許しませんでした

すべての者を激しく呪って行きました

1403 アレクサンダーを教育した老人パルメニオは

もう少しで死ぬところでした、それ程苦しんでいたのです

三人の優秀な息子のうち一人だけが彼に残されました

彼は生まれなければ幸せだったでしょう¹³²⁾

1404 ダリウスの側の者たちは、数ではるかに優っていましたが

生きて逃げるよりもそこにさらに留まることを望みました

形勢がまったく不利なのを見ると

進んで冒険を冒そうとしました

1405 フィディアス王子はオリエントの出で

シロの家系で、ヒゲの生え始めた少年でした

新雪よりも色白で

喜んでアレクサンダーと一戦交えようとしていました

1406 ダリウスは彼に誠心誠意約束しました

もし戦いに勝てば、自分の姉妹を与えると

それで彼は虚しい信頼の上に名声を得ようとしてました

というのは明日は明日の風が吹くことになるからです

- 1407 皆アレクサンダーに懲りて
彼から逃げるようとしていました
フィディアスは重大な過ちを犯してアレクサンダーに向かって行
きました
しかし後に自分の運命を呪う時が来しました
- 1408 すでに馬で走り出て、アレクサンダーと対決しようとした
アレクサンダーが横から攻撃に出ると
彼の美貌も家柄も彼を守れませんでした
体を突き刺され、そこで死ぬことになりました
- 1409 ギリシャ人たちは皆ニカノルに苦しめられました
彼らは以前よりも毅然として怒りを持って戦い
ベルシャの村々で大々的な殺戮を行いました
ダリウスの側の者たちは自分たちを不幸だと思いました
- 1410 アレクサダーは怒れる稲妻のようでした
敗れるより死を望んでいたでしょう
アフロンとリシアは素早く殺し
もう一人メロンと呼ばれたもっと強い男も¹³³⁾
- 1411 セヌス、エウメニデス、三番目にメレアゲルは
良き仲間をととても悼んでいました
(しかし) 誰もベルディガス¹³⁴⁾ ほどではありませんでした
歩兵も騎士も皆ひどい嘆きようでした

- 1412 私たちは彼らをすべて名前を挙げて述べたいのですが
各々何をしたのか、どのように戦えたのかを
残念なことに先に夜が来ます
私たちが十分の一しか語れないうちに
- 1413 しかし諺にあるよに、疑いもない事実です
名誉あるいは苦難はすべて最後に来るということは
私たちは長々と遅れないようにしましょう
楽しみが待っている最後まで行きましょう
- 1414 第九時¹³⁵⁾をかなり回っていて
日がすっかり落ち、晩課¹³⁶⁾が迫っていました
戦場がすべて死体で覆われ
アレクサンダー自身疲労した様子でした
- 1415 ダリウスの軍勢はひどく数が少なくなっていました
ある者たちは死に、他の者たちは逃げ去りました
すべての戦闘とすべての騒音は
彼個人の護衛隊の上に降りかかっていました
- 1416 どうなるかはすでに目に見えており
死を逃れることはできないと思い
死ぬか生まれない方がよかったと思っていました
このような大惨事を見るよりは

- 1417 ダリウスがその者たちによって勝利を納めると思ってい者たちは
もう誰も近くにいませんでした
彼は逃げるでも戦うでもありませんでした
—今日なお筆者は彼の苦悩を悲しく思います—
- 1418 しかしダリウスは戦って死のうと思っていました
彼の臣下たちは死んで、彼も生きようとは望んでいませんでした
彼の全王国が崩壊しそうな時に
生きて戦場を逃げ出そうとは思っていませんでした
- 1419 このようにダリウスが苦悩を抱いていると
軍が少しずつ動いて行きました
退却し、敗走して行っただけです
前衛が家路を走って行きました
- 1420 ダリウスが民全体を見渡した時
自分が戦場にほとんどただ一人だと気付きました
皆の最後になってしまい、ヒゲをかきむしり
台ごとゲームを放棄しました
- 1421 ダリウスは戦場に留まりたかったのですが
しかし運命の女神たちはそれを認めたがりませんでした
なぜならそれはすでに定められていて、他はあり得なかったから
です
ベッスス¹³⁷⁾ とナルボゾネス¹³⁸⁾ が彼を殺すことになっていたの
です

- 1422 アレクサンダーがダリウスが去ったことを知ると
アレクサンダーは戦いがうまく行かなかったと思いました
なぜなら彼一人のためにそのような苦難を背負い
そして今手の内から彼を逃したからです
- 1423 アレクサンダーは目をぎらつかせてダリウスを追いかけて
空を流れる星のように
あるいは泡だって流れ落ちるローヌ川のように
そこで聖マウリシオ¹³⁹⁾が一党の多くの者と死んだのです
- 1424 夜がギリシャ人たちを妨げ、立ち止まらなくてはならなくなり
天幕に戻ることにしました
しかし大きな怒りと激しい苦悩をもって
なぜならダリウスを捕えることができなかったからです
- 1425 彼らが天幕に帰る前に
騒動が起こらないと確信してのことですが
強力な二人の王が立ちはだかりました
彼らは侮辱されて生きるより死ぬことを望んでいました
- 1426 アレクサンダー王は驚きました
疲れていましたが、間を置かず
傷つき疲れ果てた体を盾でかばい
皆の先頭に立って直ちに打って出ました

- 1427 アレクサンダーは直ちにふさわしく迎えられました
数えきれないほどの棍棒や槍で（攻められたのです）
早い者勝ちで攻撃を仕掛け
彼は体に無数の傷を負いました
- 1428 王はすぐに臣下たちに助けられ
彼らは髪にかけてすべて追い払いました
粗末な食事とまずい糧食が彼らに分け与えられました
彼らは他の機会よりもしっかり戦っていました
- 1429 最初の打撃で、神が望んだように
そこにいる者のうち隊長が死にました
死ぬことができる隊長は心で喜んでいました
とても喜んで死んでいったのです、しかししっかり復讐を果して
- 1430 ベルシャ人たちは死にたがっていたので、大胆でした
ギリシャ人たちを歯をむいて攻撃してきました
ギリシャ人たちはすでに言っていました、自分たち
うんざりしていて
神の怒りが彼らを送ったのだと
- 1431 ギリシャ人ラシマクス¹⁴⁰⁾は非常な侮辱を受けました
なぜなら最重要人物に数えられるべきですから
そこでは非常に幸運でとても良い使われ方をしました
戦いの中ですべての人よりも勝っていました

- 1432 そこにいたすべての人を激しく攻撃し
非常な損害を与えたので彼らは大きな苦痛を被ることになりました
遠くにいた者たちはそれで恐怖に駆られました
娯楽や祭りにはまったく見えませんでした
- 1433 ギリシャ人たちは勇敢で幸運だったので
ペルシャ人たちをひどく苦しめました
大多数の者をその墓に投げ入れ
残った者たちは倍する恨みを持って退却しました
- 1434 ダリウスはその間休んではいませんでした
傾斜地や平地を進みました
真夜中まで長距離を駆け巡ったので
そうでもしなければ優に三日は要していたでしょう
- 1435 真夜中に川にたどり着きました
—水量が豊かで、浅瀬は全然ありませんでした—
渡った後であることをしようと考えました
—もしそうしていれば、欺されることはなかったでしょう—
- 1436 ダリウスは橋を破壊させようと考えました
ギリシャ人たちがそこを渡れないようにするために
しかし他のことを考えました、まずいことになるのではないかと
これから着くことになる味方が失われるのではないかと

- 1437 思いやりが彼を負かし、そうしないことにしました
死ぬか助かるか、全てを神に任せました
そのように誠実でそのように信心深い王に
創造主は哀れみを抱いたに違いありません
- 1438 ダリウスは敗れても死ぬことはできませんでした
自殺することも、世を去ることもできませんでした
地中に入ることも、天に昇ることも
他の事ができないので、耐えるほかありませんでした
- 1439 ダリウスすは意気消沈していると思われないうに
苦しんだ民に耳を傾けました
一つにはどれだけの物を民が失ったかを知るために
もう一つには自分が勇気凛々であることを示すために
- 1440 人々がやって来たとき、数は非常に少なくなっていました
十区分以上がそこでは失われていましたから
ダリウスは落胆して大きなため息をつきました
彼は生者たちと共にいるより死んだほうがましだと思ったでし
う
- 1441 彼らがやって来たとき、ダリウスは自分の落胆を隠し
深いため息を抑え
涙をこらえながら話し始めました
皆途方に暮れているのが分かっていたからです

- 1442 《友たちよ—と彼は言いました—我々は神々に感謝すべきだ
我々にこんなに大きな苦しみをみせてくれたことを
しかし我々は固く信じるべきだ
最後に神々は我々を哀れんでくださると
- 1443 我々は創造主に対して多くの過ちを犯した
そのようなご主人様にすべきようには従わなかった
そのために我々は彼の不興を買った
なぜならその罪は大きく、その過失はさらに重大なのだから
- 1444 しかしその本性からして、—これは本当のことです—
怒っていても、哀れみはお忘れになりません
この後で我々に非常に大きな慈悲を示されるので
我々はさらに上帝を賛美するでしょう
- 1445 他の事が我々をまだ励ましてくれるに違いない
我々は多くの人にそのような事が起こるのを知っている
あんなに強力なシロを、お前たちが聞いているように
結局は一人の女が殺すことになった ¹⁴¹⁾
- 1446 セルシス王は ¹⁴²⁾ 非常に並外れた力を持っていて
海上を戦車で走らせ
戦場を船で走ることができたのだが
結局一匹の野獣を捕らえることができなかった

- 1447 もし神が望んで我々が破れても
そういうことは人には起こるものなのだが、我々は勇敢でいよう
お前たちの王は生きており、お前たちは皆元気だ
私は我々が復讐する時が来ると思う
- 1448 戦おうとしない者だけが倒れない
戦おうとしなかった者だけが破れなかった
名声を得ようとしたすべての者たちは
常に勝利と敗北を受け入れなければならなかった
- 1449 勇気が我々を負かしたのではない、運が私たちを負かしたのだ
神がギリシャ人たちを通して我々ににひどい仕打ちをすることを
望んだのだ
我々は障害とカスを携えていた
宦官と女たち：これはとんでもない間違い沙汰だった
- 1450 今から別の方法を我々は準備しなければならない
集められるだけの人々を集めよう
いつものこういうやり方はやめよう
戦いは剣で勝つものだから
- 1451 ギリシャ人たちは自分たちのしたことに自信を持って
正当な勇気をもって行ったことだと思うだろう
神々はそのことを残念に思い、彼らを侮辱するだろう
彼らは運をなくし、我々が貢ぎ物を得るだろう》

- 1452 ペルシャ人たちは皆落胆していたので
—それは不思議ではありませんでした、ひどくさいなまれていた
ので—
ダリウスは彼らに当を得た言葉をかけてやれませんでした
彼らの心から苦しみを取り去ることができるような
- 1453 ペルシャ人たちは事がうまく行かないのが分かっていました、
というのは翌日
アレクサンダー王が騎兵隊とともに
思いのまま領土に入って来るだろうから
なぜなら兵力と人員が欠乏していたので
- 1454 ギリシャ人たちは夫のない未亡人たちを捕らえ
母親の前で息子たちを力づくで連れ去り
新しく来た者たちに命令を下し
他の者たちは奴隷や笑い者になるでしょう
- 1455 ギリシャ人たちの幸運な王は
戦利品をまったく正当に分け与えました
彼はそこから分け前を要求したり、気にかけたりしませんでした
—人々は戦利品は並外れた額になると言っていました—
- 1456 すべては短期間のうちに為され、決定されて
アレクサンダーは直ちに国王軍の移動を命じました
逃げたダリウスを追い
その王国の首都バビロニアを包囲するために

- 1457 ダリウスはそこをマセオに任せてありました
彼には以前娘を婚約させました
町は防衛のためにすっかり用意ができていました
しかし神の怒りからは何も護れません
- 1458 アレクサダー王は全民衆と取り決めました
まず第一にバビロニアに行く
もし町が忠誠を誓いさえすれば
すぐに他のすべての町々もたやすくそうすることになるでしょう
- 1459 町を支配していたマセオが知った時
アレクサンダー王がそれを狙ってやって来るということを
非常に彼を恐れていたのも、すぐに会いに出かけ
町をそこにあるすべての物と共に彼に差し出しました
- 1460 私はあなたたちに他の事はすべて少し置いてもらい
バビロニアの事についてお話したい
町が非常に高貴な場所にどのように据えられているのか
川と海にどのように富んでいるのかを
- 1461 町は健康的で非常に温暖な所にあり
夏も冬も心配ありません
すべての良さに非常に恵まれていて
世の富のうちでそこには何も欠けているものはありません

- 1462 そこに住む者は苦痛を感じません
 若者たちは優しさの中で青春を過ごします
 老人は頭を振るわせていません
 そこでは木から胡椒がとれます
- 1463 そこには香料が色々あります、純粹な高良姜の茎、
 シナモンと生姜、クローブとガジュツ
 乳香と没薬、貴重なバルサム
 丁子香とナツメグそしてインド月下香
- 1464 木々は自ら非常に良い香を発するので
 それらの前ではどんな苦痛も力を持たないほどです
 それ故男たちは非常に血色が良く
 芳香は1日分の距離からも感じられます
- 1465 4本の聖なる川¹⁴³⁾はすべて隣人です
 —その内二本はその町を貫通していると言われてます—
 四つ以上の水車が香料だけを挽いています
 さらに四つが胡椒を、そしてさらに四つがクミンを挽いています
- 1466 水車の輪が穀物を挽いています
 強力な装置は揚水機と呼ばれています
 川岸にはすべて非常に豊富に物がありました
 内も外も道は安全でした

- 1467 町は川も海も魚が豊富です
—いつも新鮮なので塩漬けにしようとはしません—
数種の魚だけではなく、考え得るすべての魚がそうです
水は動物が飲むのに非常に適しています
- 1468 それらの聖なる水は別のもっと良い特質を持っています
高価な宝石を多く産出するのです
ある物は夜遠くまで光を放ち
他の物は弱い者に健康と強さを与えます
- 1469 そこには緑のエメラルドがよくあります
人が姿を写すには鏡よりはっきり見えます
身につけて歩くのに良い碧玉もあります
それをつけている者を毒草も害することはできません
- 1470 そこには燃える性質のある黒玉もあります
それは悪魔を追い出し、蛇を追ひ払います
効力のある石である磁石もあります
これはよく見ると、鉄を引き付けます
- 1471 そして鉄がその印をつけられなかったダイヤモンドもあります
子ヤギの血のだけがそれを割ることができます
ありふれた色をしたシマメノウは
近くにある物の色になります

- 1472 そこにはまた非常に良い値で売れるトルコ石があります
この石は人を陽気にして満足させます
この岸辺で孔雀石が見つかっています
それは盗みを見つけるのにとっても良いとされています
- 1473 血石はここで良く取れます
この石は高価な物です 一手に入りたいものです—
これは月の明るさを失わせる石です
それを身につけている人は目に見えません
- 1474 船を引きつける緑の貴石
光線をはねつけるサンゴ
赤い碧玉は人の安全を守ります
待ち伏せも欺瞞も王を害することはできないでしょう
- 1475 日光で色が変わるアメジストは
人に熱や病気を残しません
—元来それは冷たいので、そのような効能があります—
ダイヤモンドはそれを切れますが、ほかの力はありません
- 1476 いつも単独で横たわっていることを好む真珠は
—いつも一人ぼっちで仲間がいません—
露から生まれます、本当です
その事を知っている聖イシドロがそう言っていますから

- 1477 非常な価値のあるオパールを忘れるべきではありません
誰もその色を定めることはできません
美しさは匹敵するものを見つけることができません
女王たちはこの石を非常に愛するのを常としています
- 1478 ジラソールは小さく、イナゴマメより大きいくらいです
元来重く、赤い宝石よりも重い
内側が光り、星のようです
小さいけれど、高値がつきます
- 1479 ガラクタイトは羊の乳のように白く
乳母に豊富な乳を出させます
それは粘液を古いものでも取り除きます
口の中で溶けて砂糖のようです
- 1480 水晶は美しいけれども、冷たい感じがします
どんな焚き火でも暖まらないでしょう
道行く人々が夏に愛します
太陽が彼らの頭に害を及ぼさないように
- 1481 氷長は光線を出し、非常に明るくします
その明かりで大会議が夕食を取れるでしょう
私はセレナイトは少し価値が落ちるとおもいます
それは月のように欠けたり満ちたりします、双子のように

- 1482 シネディアは長い形の、非常に貴重な石です
魚の頭の中でよく見つかります
使ったことのある人々はその石で分かります
いい天気になるか、ひどい嵐になるか
- 1483 メノウは黒いけれど、大きな力を持っています
雲から来る嵐を撃退し
川を沼地のように鎮めます
これらの他にも多くの良い習性を持っています
- 1484 亜炭は人が言うように、黒くて重い
しかし一旦温められると
七日間も冷めません
—それは一月用には悪くありません—
- 1485 聖なる血石は良く挽かれて
粉にされ、水に入れられると
あたかもそれを葡萄酒のような良い味にします
—それを飲んだ者は決して酔ったりしないでしょう—
- 1486 多色オパールはひどい物ではありません
六十色が混ざったものですから
ダイヤモンドはすべての悪い恐怖を追い払います
それを持っている者は決して毒に殺されることはありません

- 1487 ノーブルオパールは太陽の光線に射られただけで
虹の形を壁に映します
月長石は満月のように輝きます
しかしすぐに光が失われます
- 1488 琥珀はわずかな者しか持っていません、貴重な石ですから
雄鶏の腹の中でよく見つかります
それを首にくくり付けて歩く者は
決して剣で敗れたり、死んだりしないでしょう
- 1489 玉髄は大量の水を出します、冷たくてとても美味しい水です
中に隠された泉を持っているようです
十二人分を楽にまかなえるでしょう
もしそれが注ぐ水を全部蓄えたら
- 1490 水晶の効力は我々は皆知っています
それからいかに火が出るのかを毎日我々は見えています
しかし我々はそのことを驚異とは思っていません
毎日それを使っているのですから
- 1491 サファイアとジルコン、それらは輝く石ですが
善人は気にもとめせず
本来冷たい、そして暖かい石を
良い物だと考えます、分別のある人たちですから

1492 貴重な石が百以上あり

しかしそこでは人々はすべてを豊富に持っています
もっと知りたい人は書き示してあるところを探すように
なぜなら私は私の話した人々に留めておきたいから

1493 町の中には多くの心地よい泉があります

それらは日中は冷たく、朝方は暖かく
そこでは虫もカエルも決して育ちません
渴れることがないので、美味しく健康的です

1494 町はパンも葡萄酒も豊富です

十二人の男たちでも一日分を食べきれないでしょう
私は読みました—このような場所を天国で持てますように—
年に二回ぶどうの収穫があると

1495 町の周りにある雑木林は大きいものです

そこでは獲物がたくさん取れます
大人や子供、中年の者たちが
それで自分の領地のように狩りに興じていました

1496 ダマシカや鹿、そして他の獲物

牡熊や雌熊、そして慣らされていない豚
ヤマウズラやサギ、そしてキツツキ
世の他の人たちはこれらをこんなに豊富に持っていません

- 1497 鴨、コガモなどの小さい鳥で
一杯の大きな荷車を人々は町に運んでいます
もっと美しいナイチンゲールやカケスは
美しく歌うので、値が張ります
- 1498 しかし小鳥たちはたくさんいて、皆上物のです
各々戸口に三、四籠あり
小鳥たちが鳴き始めると
母親たちは小鳥たちのために子供たちを忘れてしまうでしょう
- 1499 そこには賢い鳥オオムがいて
時々分別ある人間たちを負かします
そこには檻に閉じ込めたれた獐猛な虎がいます
—世界にこんなに恐ろしい獣はいません—
- 1500 人々は老人も若者も富んでいて
皆色とりどりの布をまとい
おとなしい馬やしっかり歩くロバに乗っています
貧乏人でも絹やマントをまとっています
- 1501 もし私たちが彼らのすべての気高さをあなたたちに語ろうとしたら
三日三晩は過ぎてしまうでしょう
なぜならガルテール¹⁴⁴⁾は望んだけれど、達成できなかったから
です
—私は彼に対抗しようともできるとも思っていない—

- 1502 しかしそこには言わずにおくことのできない事があります
どのようにして陸と海から利益があがるのかです
世界でもっとも多く船がそこにやって来ます
—それだけで豊かであるに違いありません—
- 1503 彼らはアフリカとヨーロッパに
香料と衣類を積んだ船を送ります
—そこから折悪しくアンティパテル¹⁴⁵⁾が毒杯を持ち込み
そこで折悪しくアレクサンダーがそれを飲んだのです¹⁴⁶⁾—
- 1504 私はその場所とその偉大さについてお話ししたい
その城壁の高さとその壮大さについて
その塔と門について、そしてそれらのどれがどれに劣るのか
—それらはホメロスにとっても難問だったでしょう、たやすくは
ないのですから—¹⁴⁷⁾
- 1505 私はあなた方がいつか聞いたことがあると思う
巨人たちが天に登ろうとして
塔を建てたことを¹⁴⁸⁾、私はあなたたちをだますつもりはありません
それを測ることも算定することもできる人もいませんでした
- 1506 彼らがとんでもないことをしているのを創造主が見て
彼らに分裂と大きな不幸をもたらしました
誰も己の素性が分からなくなりました¹⁴⁹⁾
このようにして彼らは不幸になって行ったのです

- 1507 その時までそこにいたすべての人々は
一つの言葉を、一つの方法で話していました
一つの言語、ヘブライ語で話していたのです
他の言葉を話すことも、蠟板に書くこともできませんでした
- 1508 神が非常に大きい混乱を彼らにもたらしたので
皆生来の言葉を忘れてしまいました
各々が自分の流儀で言葉を話していて
お互い何を言っているのかわかりませんでした
- 1509 ある人が水を頼むと、他の人が石灰を渡しました
モルタルを頼んだ人には綱が与えられました
ある人が言ったことを、他の人が別のことをしました
それ故すべての工事がうまく行かなくなりました
- 1510 人々はどうしても協調できず
作業をそのままに放置しなければならなくなり
皆世界に散っていき
各々自分の地域に住むことになりました
- 1511 それで今日塔は着工された状態ですが
異常な高さがあります
彼らに与えられた混乱の故に
その地方一帯はバビロニアと呼ばれています ¹⁵⁰⁾

- 1512 現場監督は七十二人いました
それだけ主な言葉が世界にあります
彼らがもたらす俗語、これらの言語が
労働者たちの間で混乱の本になっています
- 1513 ある者たちはラテン人で、他の者たちはヘブライ人です
他の者たちをギリシャ人と呼び、また他の者たちをカルデア人と
呼びます
また他の者たちをアラブ人と呼び、また他の者たちをシバ人と呼
びますます
さらに他の者たちをエジプト人と呼び、また他の者たちをアモリ
人と呼びます
- 1514 他の者たちをイギリス人と呼び、また他の者たちはブリタニ
ア¹⁵¹⁾の出身です
そしてスコットランド人、アイルランド人がいて、他の者たちは
ドイツの出身です
ガリアに住んでいる者たちは話し方が違います
シリアはこれらの人々とは言葉が違います
- 1515 他の者たちはペルシャの者たちで、また他の者たちはインド人で
す
また他の者たちはサマリアの者たちで、他の者たちはメディア人
です
また他の者たちはパンフィリア¹⁵²⁾の者たちで、他の者たちはヒ
ルカニア人です

さらに他の者たちはフリギアの者たちで、他の者たちはリビア人です

- 1516 他の者たちをパルティア人と呼び、また他の者たちはエラム人¹⁵³⁾です

他の者たちはカパドキアの出身で、また他の者たちはニネベ人¹⁵⁴⁾です

他の者たちはキレネ人¹⁵⁵⁾で、また他の者たちはカナン人¹⁵⁶⁾です

他の者たちはアマゾン人¹⁵⁷⁾で、また他の者たちはスキタイ人です

- 1517 バビロニアで育った者は

なんとかイコニア¹⁵⁸⁾の言葉が分かるでしょう

歴史が物語っている他の多くの言葉があります

しかし私はそれらを知るには十分な能力を持っていません

- 1518 博学の女王、善人セミラミス¹⁵⁹⁾は

神の恵みによってバビロニアに人を住まわせました

神がそう欲すると、彼女はただちにそれを成し遂げました

しかしその前に多くの労力を要しました

- 1519 彼女はそこに血統のように多くの通りを作り

それらすべてにいろいろな言語を話す人々を住まわせました

人々は互いに意志を伝えることができず

互いを野蛮人だと思っていました

- 1520 通りのどれもがそれ自身都市で
他と共同体を作ることができなかったでしょう
すべての中でもっとも貧しいものでも大農場ほどあり
王をも貧しさから救うことができたでしょう
- 1521 すべての言語を学ぼうとする者は
そこではそれらすべてについて確かなことを知ることができたで
しょう
しかし歯の抜けた老人になっていたでしょう
三分の一を学ぶ前に
- 1522 町がそのように人が混在して住まわされているので
お互いに全然理解することできません
それ故混乱という名前が与えられているのです
なぜならバビロンはラテン語では混乱¹⁶⁰⁾と呼ばれているからで
す
- 1523 城壁は並外れていて、岩の上に立っています
岩の上にありますが、しっかり堀に囲まれています
堀は深く、水が満ちています
それは深く、幅が広いので、船が行き交っています
- 1524 城壁の高さは弩の射程ぐらいで
生のしっくいと硬い火打ち石でできています
私の測り間違いでなければ、広さも同じです
中にいる者は安全だったでしょう

- 1525 塔は、私たちが知り得たところでは、頑丈で
非常な数があります—私たちは数えることができません—
年の日数はその十分の一だろうということです
—それらを見たことのない者は私たちを信じないでしょう—
- 1526 塔の大部分は大小の石でできており
他は円形や四角の大理石でできています
しかしこれらは塔にしっかり固定されています
塔に従属するように
- 1527 そこには小門の他に三十の大門があります
それぞれを一人の比類なき王が守っています
皆生まれながらにして同じ血筋の王たちで
皆広大な王国を持っているということです
- 1528 王宮は素晴らしい作りで中央にあります
そこには太陽と月と星が描かれています
そこには柱が建っており、鏡が埋め込まれていて
既婚女性も乙女もすべての女性が姿を写して見ることができます
- 1529 町の中には自然の浴場があり
そこには地下の管を通して水が供給されています
衣類や椅子が用意されていて
そこに来て着るものに事欠く者は決していませんでした

- 1530 町は四隅に四つの大きな塔が建っており
それらはガラスや上質の水晶よりも透明です
町に盗難などがあると
そこからすぐに正確にそれが分かります
- 1531 町には敵は決して近づけなかったでしょう
彼らは町からたっぷり二日かかる所に隠れていました
ネブカドネザルはそこで眠るのが常でした
彼は人々に自分は神であると言わせていました
- 1532 人々の数を想像ことはできなかったでしょう
各々の通りから十万の戦士が出て来たでしょう
これらは剣を帯びた騎士たちです
—私は誰かが言うのを恐れています：《黙れ、お前はウソをついている》と—
- 1533 ゆっくり見ることができる人を除いては
バビロニアの豊かさを信じることはできなかったでしょう
もっと知りたい人は他の師を探してください
私は本題に戻りたいので
- 1534 アレクサンダー王はとても喜びました
町の王が彼の手に接吻した時に
王は神がアレクサンダーに大きな恵みを与えたのを見てとりま
した
多数の死者なしでそれを勝ち得たのではないからです

- 1535 アレクサンダー王は人々が皆結集するように
町に入る時に軍が用意できているように
戦いの時のように全軍が武装するように
たちの悪い裏切りに騙されないように命じました
- 1536 町の民は皆納得していました
—不思議ではありませんでした、予言されていましたから—
人々は幸運な王を迎えに出ました
なぜならそれが神によって彼に認められたことだと分かっていた
からです
- 1537 道が敷かれていたので人々がやって来て
皆アレクサンダーと協定書を分け合いました
各々自分自身で彼に敬意を表し
忠実な臣下の誠を彼に示しました
- 1538 彼が町に入ると、女も男も
色々な歌を歌って彼を迎えに出ました
どれだけ人々がいたのか、どれだけ行列があったのか
言葉では言い表せなかったでしょう
- 1539 良い服を持っている者はそれを身につけずにはいられませんでした
自分のを持っていない者は借りて着ました
美しい物を持っている者はそれを通りに出しました
天国の外ではこんなに大きな喜びはあったことはありませんで
した

- 1540 子供達は枝を道に投げ入れました
色々な方法で答唱¹⁶¹⁾を唱えながら
人々は喜んでいるようでした
皆門ことに大きな明かりを灯して
- 1541 人々は香料を持ち出しました、皆きれいに積み重ねて
ある物は乾かすために、他は乾かされた状態で
空気に良い匂いを漂わせるために、皆良く準備されていました
その上通りは皆幕で飾られていました
- 1542 行列が見事に整列して通りました
最初に神聖な書を持った司祭たちが
王は運命が任じた彼らの近くにおいて
人々を皆怯えさせました
- 1543 王の後にすべての議員たちがやって来ました
また執政官たちや知事たちが案内人としてやって来ました
その後にその護衛である騎士たちが続きました
人々は彼らを主人として崇めていました
- 1544 さらに背後に王の支配下のすべての者たちが来ました
彼らは何と混乱してやって来たことでしょう、無秩序でした
しかし最後に婦人たちが非常に着飾ってやって来たので
アレクサンダー王はとても喜びました

- 1545 吟遊詩人たちの騒ぎは大変なものでした
そこには笛、豎琴、弦楽器、リラ、
管楽器、プサルタリーともっと早いテンポのチター、
キタラと心配事を鎮めるビウエラがありました
- 1546 非常に幸運な王を見たいと思い
人々は城壁や屋根に大急ぎで登りました
数え切れない人々が窓際にいました
—何人かは、私は思うのですが、窮屈さを感じていました—
- 1547 私たちはこの事から早く離れたいと思います
王はすべての塔を手中に収め
満足するまで町に留まり
幸運な男として事を良く成し遂げました
- 1548 この事において王は神に愛されたようでした
王が思いのまま町に留まったとき
軍旗を移動させ、野に出るよう命じました
—ロレンテ¹⁶²⁾、寝に行きなさい、十分に目覚めていたのだから—
- 1549 しかし約束によってか、^{さいころ}骰子の力によってか
ギリシャ人たちは罪になるような目論見をしました
肉体を楽しませて村々を行き
目に入るものを好き勝手にしました

1550 アレクサンダーはある素晴らしい所に軍を駐屯させるように命じました

—泉についても、牧場についても、これ以上の所はなかったでしょう—

彼らに普段使わない新しい法を施行しました

人々がもっと安全に行き来できるように

1551 千人の男たちに命じるように千人隊長を置きました

百人隊長には百人を導くように

五十人隊長も、十人隊長も置き

軍団の上には軍団長を置きました

1552 それで王はこれらの者たちを長にしよと望んだのです

誰が臆病なのか勇敢なのかを試すために

なぜなら多くの者はわずかな事しかしませんでした、こちらの方がより名声を得ていたのですが

他の非常に重要な事をした者たちよりも

1553 王は望みました真実が善人を守るように

働かない者が金を受け取らないように

各々自分のふさわしい席に着くように

肉の分け前は正当と判断するだけ取るように

1554 ヘトロは、その娘とモーゼが結婚したのですが¹⁶²⁾

この忠告をモーゼに与えました

それ故後に平和に、さらに高潔に暮らしました

そして民のもめ事はより良く収められました

1555 アレクサンダーは不正に使われていた習慣を変え
改められた時には良いものになりました
すべての事が改善されたので
民がすべてその事に満足しました

1556 かつては軍が移動しようとする時には
角笛やホルンやラッパを鳴らしていました
すぐに男たちはその合図を理解でき
皆すぐに出発ようとしました

1557 アレクサンダー王は、偉業の士であり、
知恵の櫃であり、高貴さの見本であり
常に名誉を他の富よりも愛しましたが
この習慣を変えました：非常な巧妙さを見せたのです

1558 兵士たちは、いつも増えていたので、大人数になり
気の向くまま、気楽に過ごしていました
角笛を吹いても、皆が聞いているわけではありませんでした
それで時々大きな過ちを犯しました

1559 王は次の日に移動する時には
その事を知らせるために、煙を合図にし
夜には確実のように火を合図にするよう命じました
皆それを受け入れ、非常に喜びました

1560 王が事を取り決め

法典を定め、法律を整えると

ただちに彼の勇敢な郎等の者たちに移動を命じました

なぜなら移動しなければ、彼らは不満をすでに感じていたからです

1561 軍は高貴な町スサを包囲に行きました

—その素晴らしさを語るには長い時間を要したことでしょう—

王も権力もない土地だったので

人々は直ちにアレクサンダーを素直に受け入れました

1562 スサには徴発できる十分な物がありました

しかし徴発しても、持って帰れなかったでしょう

袋にも大袋にもそれ以上入らなかったでしょうから

ギリシャ人たちは戦利品を置いて行かなければなりませんでした、

しかしそれを望んだわけではありませんでした

注

27) 旧約聖書創世記 2 : 10-14

74) ネブカドネザルの息子

75) アケメネス朝ペルシャの開祖シルス 2 世大王

76) リディアの王、シルスに敗れた

82) ギリシャ・ローマ神話の運命の三女神のうちの一人 Atropo、人間の運命の糸を断ち切る

83) 運命の糸を紡ぎだす Cloto とその長がさを定める Láquesis

126) 酒席の口論でアレクサンダーに槍で刺し殺される

127) 二人のペルシャ人騎士の父

128) 「伯爵夫人」とは誰のことか不明

- 129) 注 82、83 参照
- 130) Hircania は古代ペルシャ・マケドニア一帯を指す
- 131) 実際は後に病死した
- 132) Filotas のことで、アレクサンダーに対する謀反のかどで処刑された
- 133) この三人は架空の人物のようである
- 134) この四人については不明である
- 135) 現在の午後三時頃
- 136) カトリックの夕べの祈りで、ここでも時代が錯綜している
- 137) バクトリアのサトラップ
- 138) ペルシャの騎兵隊の千人隊長
- 139) ローマ時代のキリスト教の聖人で、殉教者
- 140) 将軍で、アレクサンダーの個人的護衛官
- 141) 注 74、75、76 参照
- 142) クセルセス 1 世のことで、彼は海に浮橋を架け、戦場に運河を掘った
- 143) 注 27 参照
- 144) この本の底本の作者 Gautier de Châtillon のこと
- 145) マケドニアの将軍で摂政
- 146) 史実ではない、アレクサンダーは病で死亡した
- 147) ここでも時代が合わない
- 148) ギリシャ神話の巨人たちとバベルの塔の建設者たちが混同されている
- 149) 神がそこで働く者たちの言葉を乱したことを言っている、旧約聖書創世記 11 : 7
- 150) 旧約聖書創世記 11 : 9
- 151) フランスのブルターニュのことか
- 152) 小アジアの国
- 153) エラムは古代オリエントの国
- 154) ニネベは古代アッシリア帝国の町
- 155) キレネは現在のリビアの東部地方
- 156) カナンはパレスチナの古名
- 157) ギリシャ神話で黒海沿岸にいたとされる勇猛な女武人族
- 158) 小アジアの町
- 159) バビロニアの神話的女王
- 160) confusio、バベルの塔の混乱からの説明であるが実際は Babel はアッカド語の「神の門」から来ている
- 161) カトリックの祈りの一種で、ここでも時代が混同されている。この連は新約聖書マルコ伝 11

章のキリストのエルサレム入城を思わせる

162) 誰を指しているのか不明

参考図書・辞書

Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014

Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica Editorial Castalia Madrid 2007

Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985

Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009

Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid
1976

アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991

Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986

Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001

Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse París 1968